

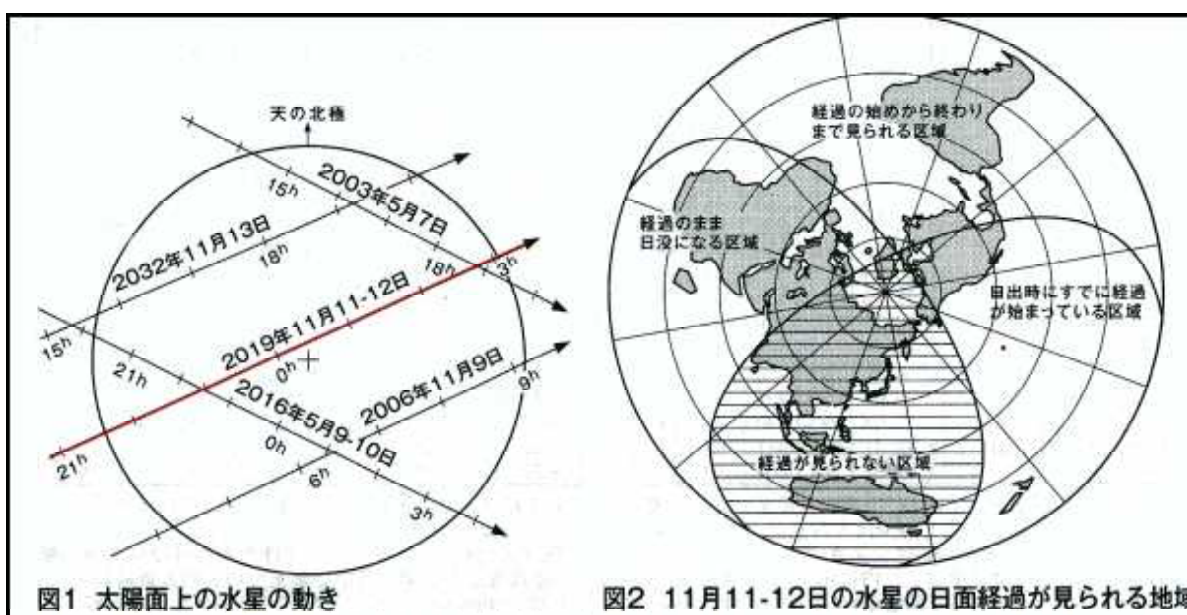
# 水星日面経過 2019 November 11

今回の日面経過は、下図のように日本からは夜間の現象で見ることが出来なかった。

現象は次のように起こった。赤線のように太陽面の中心近くを通過したために、継続時間は、五時間半に及ぶものであった。

Transit Contact Times (UTC) 2019 November 11

第一接食 12:35 第二接食 12:37  
 最大 15:20  
 第三接食 18:02 第四接食 18:04



誠文堂新光社「天文年鑑2019」より

次回は、13年後の2032年11月に起きて、日本からは午後の時間に見ることが出来る。その7年後の2039年11月にも起きるが、両方共に、現象の途中で日没になってしまう。

Transit Contact Times (UTC)

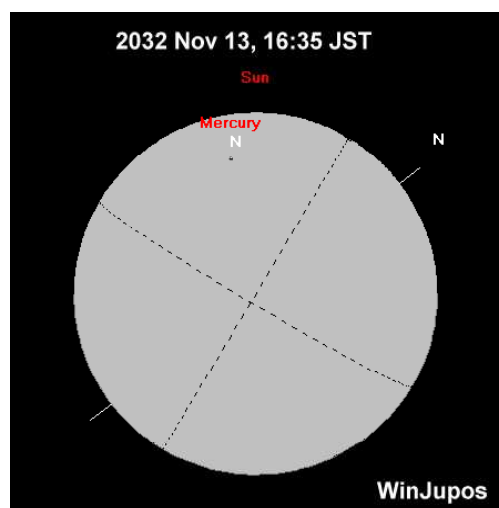
	I	II	Greatest	III	IV
2032 Nov 13	06:41	06:43	08:54	11:05	11:07
2039 Nov 07	07:17	07:21	08:46	10:12	10:15

2032年の様子を調べると、第一接食の時刻の東京での太陽高度は9度に過ぎない。

日没は07:35(16:35 JST)で、右図のように、少し太陽の内部に進んだところで日没となる。

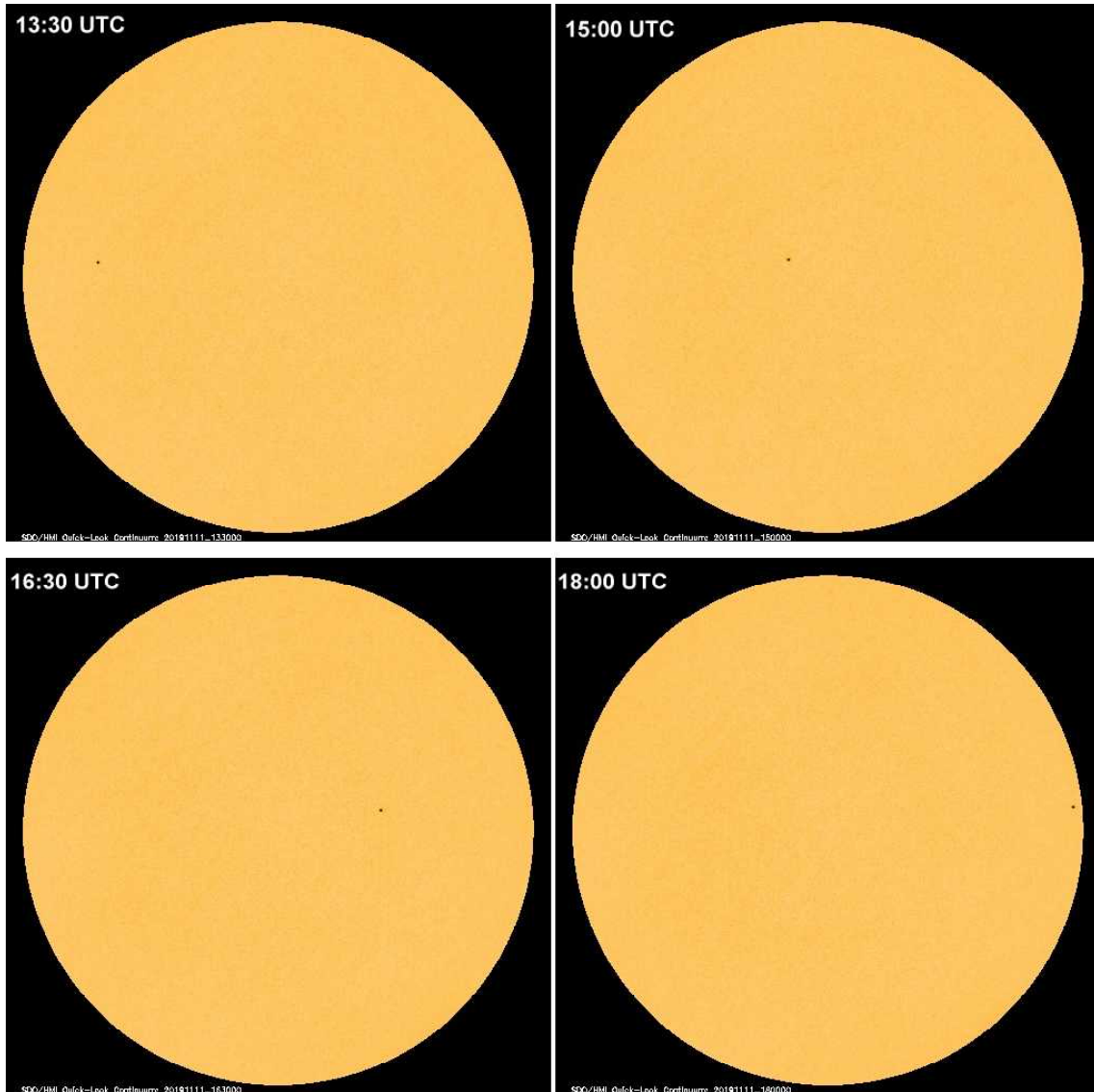
図では地平線を水平方向にしている。

2039年は、始まりは日没時の直前となり、観望は難しそうである。東京での日没は07:41(16:41 JST)である。



ここでは、今回の太陽観測衛星(SOHO)からの画像を紹介する。1.5時間ごとの画像を並べてある。衛星は地球と太陽の間のラグランジュ点(L1)を周回する軌道に位置するために、地上からと同様の太陽像を見ることが出来る。

画像は、太陽面の北極を上に行しているために、上図とは傾きが違っている。この日の北極方向角(Position Angle)は22.50度であった。



### The Very Latest SOHO Images

<https://sohowww.nascom.nasa.gov/data/realtime-images.html>

の、  
SDO/HMI Continuum Image から取得した画像である。

<https://sohowww.nascom.nasa.gov/data/realtime/image-description.html>

SDO : Solar Dynamics Observatory : [https://www.nasa.gov/mission\\_pages/sdo/main/index.html](https://www.nasa.gov/mission_pages/sdo/main/index.html)

HMI : The Helioseismic and Magnetic Imager : <http://hmi.stanford.edu/>

SDO の下記の URL のページからは、動画を見ることが出来る。

[https://www.nasa.gov/mission\\_pages/sdo/videos/index.html](https://www.nasa.gov/mission_pages/sdo/videos/index.html)

村上昌己 (高19回)